

世界が熱狂した『アリス』、ついに新国立劇場上陸！

“極上エンターテインメント”+“究極の新時代バレエ”

クリストファー・ウィールドン振付 『不思議の国のアリス』

11月2日（金）19:00／3日（土・祝）14:00／4日（日）14:00
／7日（水）13:00／8日（木）13:00／10日（土）13:00・18:30／11日
（日）14:00



<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部舞踊 広報担当 櫻井眞夕美

Tel : 03-5352-5735 / Fax : 03-5352-5737 / e-mail : sakurai_m7314@nntt.jac.go.jp

【はじめに】

既成概念を根底から覆す、バレエ新時代の到来を告げる衝撃的なバレエ

2011年きらめく閃光のごとくコヴェントガーデンに出現した『不思議の国のアリス』は、強烈な色彩が踊る舞台美術と衣裳、魔法のごとく次から次へと繰り出されるトリック、五感を揺さぶる大胆で効果的な映像、雄弁かつ現代感覚に溢れたポップな音楽、独創的でユーモアのセンスに溢れる洗練された振付などが同時多発的に炸裂する究極のライヴ・ステージです。

バレエ初心者にもバレエ通にも、大人にも子どもにも愛される、マルチ・バレエ

バレエを全くご覧になったことがない方々にも存分に楽しんでいただけるエンターテインメント性の高い作品であり、同時にバレエを深く愛するバレエ・ファンにとっても抗いがたい魅力と奥深さを兼ね備えたバレエでもあります。愉快で楽しい物語の基調はそのままに、原作がもつダークな部分も描かれており、お子様はもちろん大人も十分に楽しめる内容になっています。

アジアでは唯一新国立劇場バレエ団のみが上演を許可される

当作品は英国ロイヤル・バレエが16年ぶりに満を持して新制作した全幕バレエで、上演されるや否やその魅力的な世界に観客は熱狂、世界中のトップバレエ団がレパトリーにと切望しました。アジアでは唯一新国立劇場バレエ団が上演を許可されました。

結論、この秋必見舞台！！

極上のエンターテインメントであると同時に究極の21世紀的バレエであり、しかも古典バレエへのオマージュやそのエッセンスが詰まったこのプロダクション、この秋必見の舞台作品です。

【ものがたり】

夏の午後のガーデン・パーティで、両親の友人ルイス・キャロルが白ウサギに変身したのを見て、アリスはビックリ！その白ウサギの後を追って、アリスはウサギの穴に真逆さまに落ちてしまいます。そこでは物事はどんどん奇妙になって行って…。Events become curiouser and curiouser…アリスはこの不思議の国で、たくさんの変な生き物たちに出会います。彼女はタルトを盗んだと疑われ追われているハートのジャックに恋心を抱くのですが、事態はますます混乱を極めて行って…。Confusion piles upon confusion.— 突然アリスは驚いて目を覚まします。「みんな夢だったの??」

平成30年度（第73回）文化庁芸術祭主催公演

クリストファー・ウィールドン振付『不思議の国のアリス』

Alice's Adventures in Wonderland ©by Christopher WHEELDON

共同制作：オーストラリア・バレエ

お問合せ：ボックスオフィス（10:00～18:00）03-5352-9999

アクセス：京王新線（都営新宿線乗入）新宿駅より1駅、初台駅中央口直結

公演日時：11月2日（金）19:00／3日（土・祝）14:00／4日（日）14:00／7日（水）13:00／8日（木）13:00／10日（土）13:00・18:30／11日（日）14:00

チケット料金（税込）S席16,200円 A席12,600円 B席8,640円 C席6,480円 D席4,320円

ホームページ：<https://www.nntt.jac.go.jp/ballet/alice/>

Key Word ① 振付家クリストファー・ウィールドン

世界で最も才能豊かで多忙な振付家の一人、クリストファー・ウィールドン

クリストファー・ウィールドンは今や世界で最も多忙なコレオグラファーの一人であり、この作品の成功をきっかけに『シンデレラ』『冬物語』など次々と話題作を世に送り出し、ローレンス・オリヴィエ賞やブノワ賞など輝かしい賞を受賞しています。

名門英国ロイヤル・バレエが命運をかけた新制作作品

この『アリス』は彼が手掛けた初めての物語バレエであり、しかも世界の名門、英国ロイヤル・バレエが16年ぶりに満を持して新制作した全幕バレエでもありました。初演時、滑稽でダークな公爵夫人役に英国最高峰のシェイクスピア役者サイモン・ラッセル・ピールを起用していることでも、ロイヤル・バレエがいかにかこの作品に命運をかけていたかがうかがえます。

世界を虜に！新時代を拓いたバレエ作品

今やこの『アリス』はロイヤル・バレエの重要な主力レパートリー作品であり、また世界の一流バレエ団でも上演され国境を越えて愛される、バレエ新時代の幕開きを告げるバレエ作品となりました。

日本の「アリス」誕生に期待

キャスティングのため来日した際、ウィールドンは新国立劇場バレエ団のダンサーたちの資質を高く評価し、「日本の『アリス』が生まれることを楽しみにしている」と語っています。

Key Word ② 魅力的なキャラクターたち&絶妙な幕構成

主要メンバーがオープニングで全て登場

オープニングのシーンでこの作品に登場する主要メンバーが全て揃います。

まずは主役のアリス、彼女の母と父、家族の友人であるルイス・キャロル、そしてアリスがほのかな恋心を抱く庭師のジャックが登場します。

メインキャラクターたちが現実の関係性を維持したまま不思議の国で変な生き物に変身！

彼らは後に展開する不思議の国の想像上のメインキャラクターに変容します。彼女の母はハートの女王、父はハートの王、ルイス・キャロルは白ウサギ、庭師ジャックはハートのジャックとなり、それぞれ同じダンサーによって演じられます。

こうした二重構造でものがたりが展開されるため、それぞれのキャラクターの性質がわかりやく、さらに各々の人間関係が明確に、あるいは戯画化・誇張されたかたちで表現されていきます。

◆アリス

物語の主人公で、庭師ジャック（＝ハートのジャック）に恋心を抱いている。彼女は現実の世界と想像上の世界で彼女の母（＝ハートの女王）から彼を守ろうとする。ウィールドンによれば、原作ルイス・キャロルのアリスよりも“英雄的”なキャラ。またウィールドンのアリスはディズニー映画やジョン・テニエルが描く原作の挿絵のアリスより、黒髪でおかっぱ頭だったの实在のモデルのアリス・リデルに近い。

◆庭師のジャック＝ハートのジャック

原作にはないウィールドン『アリス』独自のキャラ。アリスとはお互いロマンティックな関心を持っている。



△アリス



△ハートのジャック



△白ウサギ



△ハートの女王

◆アリスの母＝ハートの女王

権高で強く怖いキャラ。現実世界でも想像上の世界でもジャックを罰しようとする。ハートの女王は下記右の写真からインスピレーションを得ているという。



△戦車に乗る第 71 代英国
首相マーガレット・サッチャー

Alice's Adventures in Wonderland.

Zenaida Yanowsky as the Queen of

Hearts.©ROH, 2011.

Photographed by Johan Persson

◆ルイス・キャロル＝白ウサギ

このバレエの原作『不思議の国のアリス』の作者名。バレエの中ではアリスの両親の友人として登場、白ウサギに変身してアリスを不思議の国へと誘う役割を果たしている。

Key Word ③ 極上のライブ・エンターテインメント

インタビューでなぜこの作品が大成功したのかと聞かれ、ウィールドンは「エンターテインメントだから！」と答えています。この作品はバレエ、ヴォードビル、ブロードウェイ・ミュージカルなどの豊潤なメドレーです。CGが溢れる昨今、それらが現実でないことに人々は慣れてしまっています。この作品はライブで展開する生身の人間によるパフォーマンスの素晴らしさを存分に堪能できるステージなのです。



Alice's Adventures in Wonderland. Artists of The Royal Ballet. ©ROH, 2013. Photographed by Johan Persson.

Key Word ④ 古典作品へのオマージュ、パロディがいっぱい！

原作であるルイス・キャロルの同名作品が、当時広く知られていた詩や流行歌のパロディに溢れていたように、この作品も古典バレエ作品のパロディに溢れています。

アリスが不思議の国で遭遇する、彼女の母そっくりの（とても強くて怖い）ハートの女王は『眠れる森の美女』のローズ・アダージオ（16歳の初々しく美しいオーロラ姫の踊り）を懸命に踊ります。また不思議の国の奇妙な住人であるイモ虫の踊りは『くるみ割り人形』のアラブの踊りを、花たちも『くるみ割り人形』の花のワルツを、あるいは白ウサギのパノラマティックな旅は『眠れる森の美女』のリラの精がいざなう旅を思い起こさせます。またウィールドンの振付にはアシュトン、マクミランといった英国バレエの系譜が連綿と受け継がれているのを見ることができ、そういった意味で過去と未来が同時に味わえる奥深い作品でもあります。



Alice's Adventures in Wonderland. Jonathan Howells as The White Rabbit ©ROH, 2011. Photographed by Johan Persson

Key Word ⑤ 親しみやすく、生き生きした音楽

映画界でも大活躍のジョビー・タルボットの音楽もこの作品の大きな魅力です。彼の音楽はキャロルの登場人物たちのように生き生きとそれぞれのキャラクターを描きます。おとぎ話だけど馬鹿げていて少し変な『アリス』にはぴったりの不思議でリズムカルにゆらめくオーケストラの音色を創り出しています。

振付

クリストファー・ウィールドン

Choreography by Christopher WHEELDON

英国出身の振付家。英国ロイヤル・バレエ学校で学び、1991年英国ロイヤル・バレエに入団。93年にニューヨーク・シティ・バレエに入団し、98年にソリストに昇格。2001年ニューヨーク・シティ・バレエ初の常任振付家に就任。ニューヨーク・シティ・バレエ、ロイヤル・バレエ、アメリカン・バレエ・シアター、サンフランシスコ・バレエ、ペンシルバニア・バレエ、オランダ国立バレエ、スウェーデン王立バレエ、ポリショイ・バレエ、ナショナル・バレエ・オブ・カナダといった世界中の主要なバレエ団に作品を提供している。07年に「モルフォーセス」ウィールドン・カンパニーを設立し、ロンドンのサドラーズ・ウェルズ劇場のアソシエイト・アーティストに就任。『Dance of the Hours』（16年）、メトロポリタン・オペラの『カルメン』（12年）、映画『センターステージ』（00年）、ブロードウェイ・ミュージカル『成功の甘き香り』（02年）の振付も手がけた。14年に、パリのシャトレ座で初演されたミュージカル『パリのアメリカ人』を振付。作品は2015年にブロードウェイで上演され、トニー賞の振付賞を受賞。『シンデレラ』（13年）と『冬物語』（15年）でブノワ賞。

『Aeternum』と『冬物語』でローレンス・オリヴィエ賞。14年にはレオニード・マシーン賞。2016年に大英勲章（OBE）を授与された。

キャスト

◆アリス

米沢 唯<11月2日（金）19:00・4日（日）14:00・8日（木）13:00・10日（土）18:30>



プリンシパル

愛知県出身。塚本洋子バレエスタジオで学ぶ。国内国外の数多くのコンクールに入賞し、2006年に渡米しサンノゼバレエ団に入団。10年にソリストとして新国立劇場バレエ団に入団した。ビントレー『パゴダの王子』で初主役を務め、『白鳥の湖』『くるみ割り人形』『ドン・キホーテ』『ジゼル』『火の鳥』ほか数々の作品で主役を踊っている。13年プリンシパルに昇格。全国舞踊コンクールジュニアの部第1位、ヴァルナ国際バレエコンクールジュニアの部第1位、05年世界バレエ&モダンダンスコンクール第3位、06年USAジャクソン国際バレエコンクール・シニアの部第3位など国内外のコンクールでの受賞歴も多い。14年中川鋭之助賞、17年芸術選奨文部科学大臣新人賞、18年舞踊批評家協会新人賞。

小野 絢子<11月3日（土・祝）14:00・7日（水）13:00・10日（土）13:00・11日（日）14:00>



プリンシパル

東京都出身。小林紀子、パトリック・アルモン、牧阿佐美に師事。小林紀子バレエアカデミー、新国立劇場バレエ研修所（第3期修了生）を経て、2007年新国立劇場バレエ団ソリストとして入団。入団直後に、ビントレー『アラジン』の主役に抜擢され成功を収めた。その後、『眠れる森の美女』『白鳥の湖』『くるみ割り人形』『ラ・バヤデール』『ジゼル』、アシュトン『シンデレラ』、ビントレー『カルミナ・ブラーナ』『パゴダの王子』『シルヴィア』、プティ『こうもり』『コッペリア』、フォーキン『火の鳥』ほか数多くの作品で主役を踊っている。11年プリンシパルに昇格。主な受賞歴に04年アデルリン・ジェニー国際バレエコンクール金賞、11年芸術選奨文部科学大臣新人賞および舞踊批評家協会新人賞、14年服部智恵子賞、16年橘秋子賞優秀賞などがある。

◆ハートのジャック

渡邊峻郁<11月2日(金) 19:00・4日(日) 14:00・8日(木) 13:00・10日(土) 18:30>



ファースト・ソリスト

福島県出身。鈴木寿雄のもとバレエを始める。2006年モナコ公国プリンセス・グレース・クラシック・ダンスアカデミーに留学し、マリカ・ベゾブラゾヴァらに師事。09年アカデミーを首席で卒業し、トゥールーズのキャピトルバレエ団に入団。11年よりソリストに昇格し、『ジゼル』アルブレヒト、『くるみ割り人形』王子、『ドン・キホーテ』バジル、 balanシン、ロビンス、キリアン、ドゥアト、サーブなど数多くの振付家作品を踊るほか、C.ベラルビ振付の新作「美女と野獣」では主役に抜擢された。2016/2017シーズンより新国立劇場バレエ団にソリストとして入団。2016年7月「こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』」で主役のジークフリードを演じ、好評を博し、同年「シンデレラ」にて全幕主役デビューを果たした。その後『ジゼル』『くるみ割り人形』『白鳥の湖』『眠れる森の美女』の主役を踊る。17年よりファースト・ソリストに昇格。

福岡雄大<11月3日(土・祝) 14:00・7日(水) 13:00・10日(土) 13:00・11日(日) 14:00>



プリンシパル

大阪府出身。ケイ・バレエスタジオで矢上香織、久留美、恵子に師事。2003年文化庁在外研修員としてチューリッヒジュニアバレエ団に入団、ソリストとして活躍。05年チューリッヒバレエ団にドゥミソリストとして入団し、07年まで所属。2000年NBA全国バレエコンクール・コンテンポラリー部門第1位、03年神戸全国洋舞コンクール・バレエ男性シニア部門グランプリ、08年ヴァルナ国際バレエコンクール・シニア男性部門第3位、09年ソウル国際舞踊コンクール・クラシック部門シニア男性の部優勝などがある。09年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団。『ドン・キホーテ』、『白鳥の湖』、『くるみ割り人形』、『火の鳥』、 balanシン『アポロ』、ビントレー『バゴダの王子』ほか数々の作品で主役を踊っている。12年プリンシパルに昇格。11年中川鋭之助賞、13年舞踊批評家協会新人賞、18年芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

スタッフクレジット

【振付】

クリストファー・ウィールドン

【音楽】

ジョビー・タルボット

【美術・衣裳】

ボブ・クロウリー

【照明】

ナターシャ・カツツ

【照明リプロダクション】

サイモン・ベニソン

【台本】

ニコラス・ライト

【映像】

ジョン・ドリスコル、ジュンマ・キャリントン

【パペット】

トビー・オリー

【マジック・コンサルタント】

ポール・キエーヴ

【振付指導】

ジャクリーン・バレット、ジェイソン・ファウラー

【コレオロジスト】

アナ・トレヴィアン

【指揮】

ネイサン・ブロック

【管弦楽】

東京フィルハーモニー交響楽団

【共同制作】

オーストラリア・バレエ

Alice's Adventures in Wonderland© was commissioned and first performed by The Royal Ballet and the National Ballet of Canada.

「不思議の国のアリス」は英国ロイヤル・バレエとカナダ国立バレエによって委嘱・初演されました。

【主催】

文化庁芸術祭執行委員会／新国立劇場